

視聴覚教育時報

No.716 2019年 8月号

contents

- ▽令和元年度全視連「視聴覚教育功労者」10名が決定
—11月9日(土)全国大会で表彰—
- ▽令和元年度 視聴覚・放送教育全国大会
生涯学習部会の研究交流、セミナー・実践発表など内容決まる
- ▽平成30年度 全視連研究プロジェクト「地域メディアセンター事業事例」
〈事例2〉千葉県総合教育センターにおけるICT活用に関する取組
～ビデオカメラを用いた教材づくりを楽しもう～
- ▽えすけーぷ

▽令和元年度全視連「視聴覚教育功労者」10名が決定 —11月9日(土)全国大会で表彰—

各都道府県・指定都市教育委員会および各加盟団体の推薦により、令和元年度 第22回全国視聴覚教育連盟「視聴覚教育功労者」10名が次の通り決定いたしました。なお、表彰式は11月8日(金)・9日(土)開催の視聴覚教育・放送教育の全国大会・合同大会の2日目の9日(土)に、東京都台東区立台東育英小学校において執り行われます。



昨年の広島大会での表彰式のもよう

■岩手県・坂本アキ子(さかもとあきこ)

平成17年4月、盛岡教育事務所管内教育振興協議会に着任、以来現在まで14年間勤務している。中央視聴覚ライブラリーの担当となり、同事務所管内の8市町の公民館や児童館等を対象にDVDや16ミリの貸し出し、返却後のフィルムのチェックや修理を行う。同21年からは「16ミリ映写機操作技術講習会」を企画・運営するとともに、自ら実技指導も行い、16ミリの地域における操作技術者養成にも力を注いできた。同29年からは一般県民を対象に、平泉に関する貴重な16ミリの映像についての説明や上映会を実施している。以上、同人の活動実績は、地域の視聴覚教育の振興に大きな功績があると認められる。

■山形県・後藤弘実（ごとうひろみ）

平成3年、遊佐図書館読み聞かせボランティア「たんぼぼ会」に参加し現在まで27年間継続している。同5年、歌と読み聞かせのグループ「ハートカンパニー」、同6年、蕨岡小学校読み聞かせボランティア「ひだまりの会」、同10年、酒田市立図書館朗読ボランティア「秋桜の会」に参加、同17年からは自ら紙芝居を制作する団体「みわの会」を設立し、今日に至る。視聴覚教材の自作コンクールでの入賞も多数ある。また、小学校での読み聞かせや高校での紙芝居制作の指導も行うなど、紙芝居の面白さを若い世代に伝えている。これらの活動を通して、視聴覚教育の発展、そして地域の活性化に大きく貢献している。

■栃木県・早川陵子（はやかわりょうこ）

平成19年、下都賀地区視聴覚ライブラリー協議会臨時職員となる。唯一の専任職員として、栃木市栃木図書館において、所蔵視聴覚資料の管理・貸出、広報及び上映会の開催等を現在まで12年間にわたり担っている。同図書館における映画会の開催や子ども会及び地域イベントで催される上映会のサポートだけでなく、自らも講師を務める16ミリフィルム映写機技術講習会については、幼稚園、保育所職員への参加も働きかけ、啓発に努めるなど、地域の視聴覚教育現場に欠かせない人材である。以上のとおり、同人の活動は、視聴覚教育の現場担当者として他の範となるものである。

■埼玉県・宮城英和（みやぎひでかず）

昭和55年、県公立小学校教諭として採用、その後17年間、各勤務校にて視聴覚主任として教材開発や教育機器を活用した学習指導の実践や、PTA・地域の方々を対象とした学校開放講座（パソコン基礎）の運営・指導を行った。また、視聴覚ライブラリー運営審議委員として公民館や図書館などの社会教育施設等の教育機

器（16ミリ映写機やTV放送等）を活用した学習活動の充実を図り、一般市民向けの学習活動の環境整備に尽力した。さらに、県民活動総合センターでは県民向けに教育メディアを活用した事業「パソコン講座」の開設に尽力するとともに指導者も務めるなど、地域及び県の視聴覚教育の普及に大きく貢献した。

■新潟県・小林民弥（こばやしなみや）

昭和50年、公立小学校教諭として就任以来、平成25年に小学校長として定年退職を迎えるまでの38年間、視聴覚機器を活用した理科教育実践に熱心に取り組み、その成果を全国規模の研究大会で発表した。また、同61年から3年間、十日町市教育委員会事務局職員・視聴覚教育主事を命じられ、十日町市視聴覚ライブラリー主任を務め、視聴覚教材の整備、ビデオ作品の作成やコンピュータ研修会等の講師を担当。管理職となっても新潟県立生涯学習推進センター副参事や新潟県教育庁中越教育事務所社会教育課長などを歴任するなど、様々な立場で後進の育成に力を注ぎ、地域の社会教育の充実・発展に多大なる貢献をした。

■岐阜県・岩見三七夫（いわみみなお）

昭和48年から平成16年まで美濃市役所職員として勤務。市役所に勤務する傍ら、平成5年、美濃市視聴覚協議会に入会、同26年、同協議会会長に就任し、現在まで26年間にわたり視聴覚ボランティア活動を行っている。行政関係の祭礼の他、学校行事などのビデオ撮影や社会福祉協議会からの要請による映画上映などを行っている。同28年からは岐阜県社会教育視聴覚連絡協議会常任理事に就任、同29年には同協議会役員に就任。岐阜県社会教育視聴覚連絡協議会表彰や岐阜県知事表彰（視聴覚教育功労者表彰）を受けるなど、地域及び県の視聴覚教育の普及に大きく貢献した。

■愛知県・島田繁直（しまだしげなお）

昭和57年から現在まで公立小学校や岡崎市教育委員会に勤務し、現在は小学校勤務。この間、岡崎市のみならず西三河地区及び愛知県内の視聴覚・情報教育を先導し、その発展に貢献してきた。平成3年より同29年まで、社会科分野の自作視聴覚教材の制作を数多く手掛け、全国自作視聴覚教材コンクールにおいて、同人が手掛けた教材3作品が入賞した。また、同9年より21年までの12年間にわたり岡崎市視聴覚ライブラリー運営協力員として、16ミリ映写機操作実技講習会、VTR講習会の講師を務めるなど、岡崎市や県内の社会教育・学校教育の両面において視聴覚教育の普及・発展に大きく貢献した。

■兵庫県・小林康弘（こばやしやすひろ）

昭和63年に西紀・丹南町教育委員会（現丹波篠山市教育委員会）に就職。以降、通算18年にわたり視聴覚ライブラリーに勤務。その間、自主制作映像を活用した地域づくりの推進や、映像ボランティアサークルの育成を行う。また、制作した地域動画情報の、全自治会へのビデオテープによる配布や、地域映像のネット配信、イベントのネットライブ配信を行った。全国のアマチュア映像ビデオコンテストの開催は、映像制作を生涯学習社会の新しい学習手段として定着させると共に地域間交流の役割を果たすなど、常に次の時代を予測し、一歩前を見据えて視聴覚教育を推進しており、他の範となるものと考えられる。

■鹿児島県・出水澤孝洋（いずみざわたかひろ）

昭和57年、公立小学校勤務後、教育委員会、中学校教頭・校長を経て退職、現在は公民館長。教諭として先進的に視聴覚機器の活用を進める一方、視聴覚教材を積極的に活用し、学校や地域の視聴覚教育の普及に努めた。この間、視聴覚ライブラリー選定委員や視聴覚研修講師、IT活用講座講師などを務めた。さらに、社会教育主事の資格を有し、青少年教育や成人教育講座等の講師を務め、広く県民の視聴覚機器利用普及に貢献した。現在も、先進的なメディア研修に参加し、プログラミング教育を取り入れた講座開設を視野に入れ準備を進めているなど、長年にわたる地道な視聴覚教育の普及活動は他の範となるものである。

■北九州市・平田勝治（ひらたかつじ）

平成7年、16ミリ映写機操作技術講習会を受講し、同時に「北九州市AVEの会」に入会。同18年に理事に、同30年に同会八幡西区会副会長に就任し、入会以来24年間、映写ボランティア活動を行い現在に至る。毎月、学童保育クラブや老人施設、保育園などを訪問し、16ミリ映写会を開催している。その活動は、今年24年目を迎え、78歳になる現在でも、各施設の訪問は継続して行っている。常に同会活動の先頭に立ち、永年にわたり、多くの子どもや年長者に夢と希望を提供する姿は「映画のおじちゃん」として親しまれるなど、視聴覚教育の推進や青少年の健全育成に果たした役割は大きい。

▽令和元度 視聴覚・放送教育全国大会

生涯学習部会の研究交流、セミナー・実践発表など内容決まる

令和元度の視聴覚・放送教育全国大会は11月8日（金）・9日（土）に東京都内や埼玉県内の幼・小・中学校などで開催されますが、このほど生涯学習部会の研究交流、セミナー・実践発表についての内容が下記のように決定しました。

▽11月9日（金）研究交流

パナソニックセンター東京（東京都江東区有明3-5-1）

- ・施設見学・事業紹介（13:30～15:00）
- ・意見交換会（15:00～15:30）
- ・理事会、センター総会（15:30～16:30）

会場となる「パナソニックセンター東京」は、ショールームであるとともに、子どもから大人まで、そして教育関係者に向けた体験型教育施設である「リスーピア」を併設しています。理科・数

学のおもしろさ、すばらしさを体験できる施設として開設された「リスーピア」のねらいや機能についてお話を伺うとともに、映像と体験を組み合わせた展示（ビジネスソリューションズゾーン、オリパラゾーン、NEXT コミュニケーションゾーン）を見学し、これからの視聴覚教育の取り組みの参考にいただけるようにします。

▽11月9日（土）東京都台東区立台東育英小学校（東京都台東区浅草橋2-26-8）

・セミナー（9:20～10:50）

内容：平成30年度の研究プロジェクトで行われた「地域メディアセンター事業事例研究」の成果を報告し、取り上げられた5つの視聴覚センター・ライブラリーの実践から学ぶとともに、意見交換により、それぞれの立場で各実践をどのよう

に生かせるか考えます。

司会者：村上長彦（全視連専門委員長）

基調提言：丸山裕輔（全視連副専門委員長／新潟県阿賀町立上条小学校校長）

意見交換：基調提言の後、司会者と基調提言者に参加者も交えて今後の在り方について意見交換。

・全体会（11:00～12:00）

開会行事、功労者表彰式、NHKプレゼンテーション、15:10～講演（辻野晃一郎氏）

・実践発表（13:00～14:55）

テーマ：「視聴覚センター・ライブラリー実践発表」

司会者：村上長彦（全視連専門委員長）

発表A：樋口 誠（春日部市視聴覚センター）

内容：埼玉県春日部市視聴覚センターは、様々な取り組みを通して、市民の生活文化と知識の向上を図り、あわせて社会教育と学校教育の振興を図っています。現在、実施している取り組みについて紹介します。

発表B：増山和宏（宇都宮市立視聴覚ライブラリー）

内容：宇都宮市立視聴覚ライブラリーは、様々な取り組みを通して、市民の生涯学習を援助し、学校教育及び社会教育における視聴覚教育の振興を図るため現在、実施している取り組みについて紹介します。

全国大会HP

<http://www.javea.or.jp/soutai/>

▽H30年度 全視連研究プロジェクト「地域メディアセンター事業事例」報告書

全視連の専門委員からなる「地域メディアセンター構想研究部会」では、平成30年度、地域における学びに役立つメディアサービスを充実させていくために、視聴覚センター・ライブラリー機能をどうリフレッシュさせるかの調査研究を実施した。

報告書では「事例編」として5名の委員が執筆者となり、「メディアを学ぶ」「メディアを創る」「メディアを送る」「メディアを使う」というテーマに沿って執筆した。本時報では今後「1岩手県」「2千葉県」「3栃木県」「4仙台市」「5新潟県」の順で事例を紹介する。

<事例2>千葉県総合教育センターにおけるICT活用に関する取組

～ビデオカメラを用いた教材づくりを楽しもう～

1. 取組のねらい

総合教育センターは、教育に関する調査研究及び教育関係職員の研修を行うとともに、県民に対し、教育に関する奉仕を行うことにより、千葉県の教育の振興に資することを目的としている。

カリキュラム開発部メディア教育担当では、情報・ICT教育に関わるサイトのリンク集を作成し、教員に限らず県民に対しても「教育の情報化」についての情報を提供している。また、教員が積極的にICT活用に取り組む意識を高めるため、当センター内には体験ルームがあり、指導のヒントとなる教材を展示し、操作できるようにしている。本取組では、そうしたICT活用の中でも比較的身近に感じられるビデオカメラを用いた教材づくりから授業や学習の支援に繋がるような研修を目指したものである。

事業番号		平成30年度 ビデオカメラを用いた教材づくり研修 実施要項			
1	目的	ビデオカメラの操作方法と撮影技法、及びノンリニア編集の技術を習得し、映像教材を学校等の教育活動に活用できるようにする。			
2	対象	幼児教育・学校教育・社会教育・行政関係者。デジタルビデオカメラを使った撮影に興味があり、パソコンの基本操作が可能な者。 20名			
3	期日	8月8日（水）、8月9日（木）（2日間）			
4	会場	千葉県総合教育センター 〒261-0014 千葉市美浜区若葉2丁目13番 電話 043-276-1166			
5	内容	受付 9:00～9:25 研修 9:30～12:30 13:30～16:30			
月日	時間	主 題・内 容	講 師・助言者	会場等	
8 水	9:30～ 9:40	オリエンテーション	総合教育センター所員		
	9:40～ 12:30	<講話・実習> ビデオカメラの操作方法と 撮影技法 ・ビデオカメラ操作法 ・パンとチャルト、ズーム	八千代市教育センター所員	C302 C303 C311 C411	
	13:30～ 16:30	<講話・実習> ビデオ教材作成と撮影 ・教材の構想、活用方法 ・撮影	総合教育センター所員		
8 9 木	9:30～ 12:30	<講話・実習> 動画編集の基礎知識・技術 ・動画編集の基本 ・動画ファイルの基礎 ・ノンリニア編集ソフトの 操作方法	八千代市教育センター所員	C311 C412	
	13:30～ 15:30	<実習> 動画編集 ・編集作業 ・オーサリングとDVD作成	総合教育センター所員		
	15:30～ 16:30	<発表> 制作作品の発表・評価			

※ 講師及び主題については、変更する場合があります。

図 1. 千葉県総合教育センターHPより

2. 取組の概要

(1) 研修の周知

平成30年度ビデオカメラを用いた教材づくり研修は、例年と同様、千葉県総合教育センターHPに実施要項(前頁図1)を掲載。校種に限らず、映像教材や自ら撮影した動画等を用いて、学校等の教育活動において活用できることを目的としている。

今年度も各校種から受講の希望があり、改めて学校における動画活用の必要性を感じるものとなった。どの校種でも、今後一層推進されるであろうICT教育に向け、映像教材を自作し、活用する技能の向上を目指す受講者側の姿勢が伺える。ビデオカメラは、自身の趣味・家庭でも使用する機会は比較的多いが、学校現場でも活用できる場面は多いと感じる。単なる撮影に留まることなく、動画の編集技術を身につけておくことは、授業力の向上や行事で生かされる機器の一つとして、必要と言える。

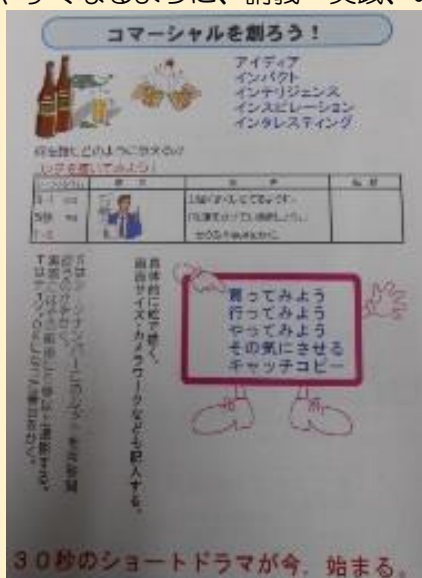
(2) 平成30年度ビデオカメラを用いた教材づくり研修の実際と受講生の声(アンケート自由記述より)

今年度は当日に台風接近の予報があり、本来は実施要項(図3)に記載されている内容での予定であったが、急遽講師の配慮により、実践を多く含めながら1日でまとめていただいた研修となっている。

【9:40~11:00】

〈講義・実習Ⅰ〉ビデオカメラの操作方法と撮影技法

*受講生が教えてもらった技法をすぐに試し、理解がしやすくなるように、講義→実践、の流れを



講師資料1. 撮影技法の説明・間違いの例等

繰り返す形式で実施した。「ビデオ撮影に不慣れではありましたが、基本的な内容から講義をさせていただいたので、大変良かったと思いました。」(高等学校教諭)

【11:10~12:30】

〈講義・実習Ⅱ〉撮影の技法・注意点について、製作グループ作成・構成検討

*コマーシャルの作成にあたり、どこを意識すべきか(見せ方・魅せ方)がわかり、グループで構成検討も積極的に行われた。

「同じビデオカメラでも撮り方ひとつで大きく変わることがわかりました。」(中学校教諭)

「カメラワークといった機種に依存しない知識・技法を学ぶことができ、勉強になりました。」(高等学校教諭)



講師資料2. 撮影の注意点・図式説明等

【13:30~16:00】

〈実習Ⅲ〉グループ撮影、製作(基本編集)、作品発表

*午前中に話し合ったことを基に、研修室や廊下等を使って、それぞれのグループ別テーマに合うCMづくりに挑戦、早速技法を駆使し、活発に意見交換できた。



講師資料3. 撮影の注意点・図式説明等



基本的なカメラ操作を学ぶことができた。いろいろと撮影の仕方を経験することは、今後の新しい発想に繋がってくると思った。」(中学校教諭)

【補足資料】レベルに合わせた入門・基礎／上級・応用テキスト(写真上左・中央)。研修後、各グループの作品がデータ化されたDVD(写真上右～振り返り用)

3. 取組の成果

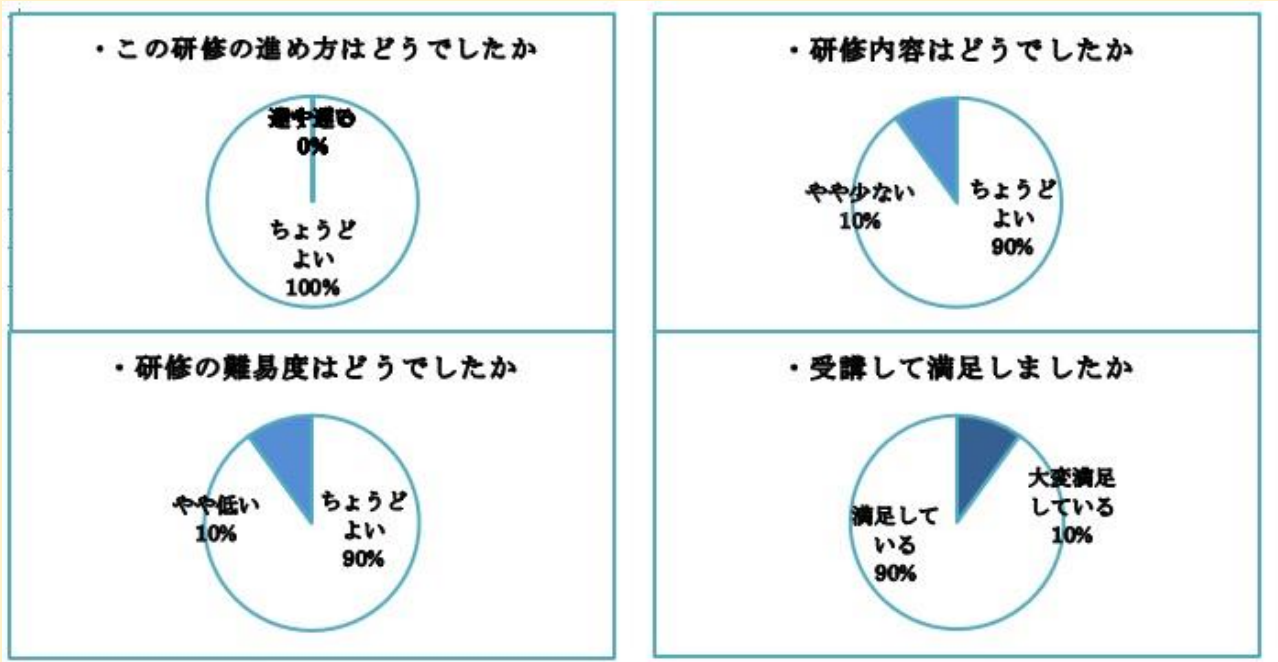
平成30年度ビデオカメラを用いた教材づくり研修後の項目別アンケート結果は下記の通りであり、進め方・内容・難易度・満足度とも、高評価の結果となっている。2日間とも実施できれば…という思いもあるが、研修中の受講生が笑顔で取り組んでいる姿や、実技の中に講義を入れたことで、目標を達成できたと考える。

「2日分の研修をわかりやすくまとめていただき、楽しく研修ができました。」(特別支援学校教諭)

「時間があれば、体育や運動での撮影技法、または効果的な学習に結び付けることのできる活用方法をお聞きできればと思いました。」(中学校教諭)

4. 今後の可能性

ビデオカメラは、自ら撮影することがあっても、よりよく映す技法や「見せる」ためのテクニックを学ぶ機会が少ないと考える。さらに、そのような研修において、グループで協力して作業・工夫をすれば、なおさら機会は少なくなるであろう。この研修を生かし、自校に戻ってからも教員同士が協力して取り組めるよう、引き続き満足度の高い研修となるように努めて参りたい。



<執筆：千葉県総合教育センター研究指導主事 福島 慎太郎(平成30年度の所属)>

▽えすけーぷ

2019年度前期放送のNHK連続テレビ小説「なつぞら」では、日本のアニメーション草創期のアニメーターが奮闘する姿が描かれ、世界的に高い評価を得るようになった日本のアニメーションがどのように育まれてきたかが良くわかります。また、先般の京都アニメーション放火事件では、不幸な事件の報道の中で、改めて日本のアニメーションのレベルの高さが認識されています。

そんな中、海外のアニメーション作品を見る機会があり、そこで改めて考えさせられたのは、「アニメーションの持つリアル感」ということです。見たアニメーション作品自体は、CGを駆使して本物そっくりに描くことを目指した作品でもなく、単純化された線で描かれたアニメーションで、リアルな表現を目指したものではありませんでした。しかし、作品全体を見てみると、実写作品以上に「リアル感」を感じ、不思議な感覚に襲われました。

もちろん、作品の完成度の違いということもあるでしょうが、アニメーションそのものの持つ力ということもあるのではないのでしょうか。

アニメーションでは、表現が省略されることによって、伝えたいことに絞った映像表現が出来るという強みがあるように思います。

たとえば、海の中に入ってすべ濡れになって、そのまま次の展開につながるというシーンを想定してみると、実写の場合は、濡れた衣服や髪の毛のままた次の展開に入っていくこととなります。すると、次の展開の映像を見る者の意識に濡れた状態であることが引きずられてしまいますし、濡れていないのも別の違和感を生じさせてしまいます。しかし、アニメーションであれば、海に入った直後に展開する場面であっても、濡れた表現を省略しても違和感なく見ることができ、ストーリー展開に集中できるのではないのでしょうか。

他にも「リアル感」につながる要因はいくつもあるかと思いますが、アニメーション作品ならではの見る者に訴える力を生かした作品を、多世代に伝えられるような視聴覚センター・ライブラリーの活動に期待したいものです。(TM)

全国視聴覚教育連盟

〒105-0001 東京都港区虎ノ門 3-10-11 虎ノ門 PF ビル

TEL : 03-3431-2186 / Fax : 03-3431-2192

HP : <http://www.zenshi.jp/>

Mail : info@zenshi.jp

東映 教育ソフト Line-up!

道徳・特別活動

いじめ 心の声に気づく力

小学校中・高学年向けのいじめ防止教材ドラマです。一見遊びに見える行為も、相手が苦痛を感じていれば「いじめ」であることを理解し、傍観者にならず、解決のために何か行動しようとする意識を持つことをねらいとしています。



(19分)

指導の手引書・ワークシート付き

66,000円(税抜)

いじめ 一歩ふみ出す勇氣

中学生向けのいじめ防止教材ドラマです。いじめの傍観者だった主人公が葛藤し、仲間と一緒にいじめの被害者を救ってほしいとする感動的なストーリーを通して、いじめ解決のために一歩ふみ出すことの大切さを伝えます。



(19分)

指導の手引書・ワークシート付き

66,000円(税抜)

小学校 社会科

なぜなに社会科 映像資料集

DISC1 飲料水・電気

知りたい! 浄水場 (11分)

知りたい! 火力発電所 (11分)

知りたい! 自然エネルギーを使った発電 (14分)

DISC2 ごみ処理・下水道

知りたい! 清掃工場 (10分)

知りたい! 資源のリサイクル (13分)

知りたい! 下水処理場 (12分)



次期学習指導要領に向けた、小学校社会科の新シリーズ。最新の映像、的確な構成で、社会の中の様々な事象を紹介します。とことん映像の力で見ていく社会科教材の王道をいくシリーズです。

監修：東京都台東区立金亀小学校 校長 古谷尚律

DISC1 3タイトル+映像クリップ 本体価格:66,000円(税抜)

DISC2 3タイトル+映像クリップ 本体価格:66,000円(税抜)

小学校 道徳・特別活動・防犯

情報モラルを身につけよう!

小学生のスマホの安全な使い方教室

1巻 自分も相手も傷つけないために (21分)

2巻 危険な目にあわないために (18分)

スマホを利用してトラブルに巻き込まれる小学生の事例をドラマで描き、子供たちに安全で正しいスマホの使い方を知りやすく解説した作品です。情報モラルを身につけることの大切さを子供たちに訴えます。

監修：兵庫県立大学環境人間学部 准教授 竹内和雄



教育映像祭優秀賞受賞

各巻 66,000円(税抜)

2巻セット 120,000円(税抜)

文部科学省特別選定
学校教育教材・社会教育(教材)

指導の手引書・ワークシート付き

お問い合わせ・チラシ請求は

☎ 03 (3535) 3613 FAX03 (3535) 3632



<http://www.toei.co.jp/edu/>

教育映像 検索



東映株式会社 教育映像部

〒104-8108 東京都中央区銀座3-2-17

(価格は税抜きです) ●学校向け特別価格もございますので、お気軽にお問い合わせください。

<http://www.toei.co.jp/edu/>